

「常時活動」の具体的な活動例を、指導の手引き「音楽づくりハンドブック」で提示しました

「音楽づくりハンドブック」から抜粋

常時活動 「名前ゲーム」「リズムリレー」

領域	対象学年	活用すると予想される[共通事項]								活動名 活動の内容	活動のねらい
		音色	リズム	速度	旋律	強弱	拍子	反復	問いと答え		
リズム	低・中		○	○			○		○	「リズムリレー」 ○リズムパターンカードから、リズムを選んで手拍子や楽器、リズム唱で表現する。数人の子どもでリレーのようにつなげてよい。 ○最初は、四分音符だけでつなげ、段々発展させて色々なリズムも取り入れていくようにするとよい。	○リズムパターンの習熟をすることで一定の速度で正しくリズム表現ができるようにする。 ○速度や拍子感を一定に保ちながらリレーすることで、リレーが続けられることに気付くようにする。

領域	対象学年	活用すると予想される[共通事項]								活動名 活動の内容	活動のねらい
		音色	リズム	速度	旋律	強弱	拍子	反復	問いと答え		
リズム	低・中		○	○				○	○	「リズムパターン遊び」「名前ゲーム」 ○リズムパターンカードに合った言葉を考えて、手拍子とリズム唱で表現する。数人の子どもでリレーのようにつなげてよい。 ○「あなたのお名前なんて言うの?」という問いかけに、名前のイントネーションに合わせて考えたリズムを、手拍子をしながらリズム唱する。 (果物など、違う言葉で応用しても可)	「リズムパターン遊び」 ○リズムパターンの習熟をすることで一定の速度で正しくリズム表現ができるようにする。 「名前ゲーム」 ○言葉を手がかりに、自分でリズムパターンを考えて表現できるようにする。

リズムパターンカード

1	♪ ♪ ♫ ♪	2	♪ ♪ ♫ ♪ ♪
3	♪ ♪ ♫ ♪ ♪	4	♪ ♪ ♫ ♪ ♪
5	♪ ♪ ♫ ♪ ♪	6	♪ ♪ ♫ ♪ ♪
7	♪ ♪ ♫ ♪ ♪	8	♪ ♪ ♫ ♪ ♪

画用紙などでカードにして、提示しよう！

小学校2年授業実践例

音楽科学習指導案

1 題材名 紙で虫のおしゃべりをつくろう

〈教材名〉 音楽づくり 「紙を使った音づくり」

鑑賞曲 「山のポルカ」による「森のカーニバル」 石桁 冬樹 作曲

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下の学習指導要領第1学年及び第2学年の内容によるものである。

B 表現(3)
ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること
イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること
[共通事項]
ア (ア) 音色、強弱、速度
(イ) 問いと答え

3 題材の目標

一枚の紙や打楽器から音色や強弱、速度の違う音が出せる方法を探ることで、友だちに自分の思いを伝えて、音楽づくりを楽しむことができる。

4 授業中における生徒指導 (略)

5 指導と評価の計画 (4時間予定) ※ 太字は、常時活動にかかわる活動

評価規準			
音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①打楽器や紙による音の違いに興味をもって好きな音を見つけている。 ②紙や打楽器でつくった音で友達と掛け合いを楽しんでいる。	①情景に合わせて、紙や打楽器の音の出し方を工夫している。	①紙や打楽器で情景に合った音をつくることのできる。 ②紙や打楽器でつくった音で、掛け合いをすることができる。	①既習曲「山のポルカ」の旋律を味わいながら音色や強弱、速度の違いに気付くことができる。
過程	時	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
感じる過程		◎いろいろな音や音色の違いを感じ取りながら、音に対する関心をもつ。	
	1	◎ 常時活動 で名前リレーをする。 ○「森のカーニバル」を鑑賞する。 ○身近な打楽器について、打ち方によって音色が変わることに気付く。	・ 速度を一定にして活動することが大切であることに気付くために、名前に合わせて考えたリズムを手拍子でリズム打ちをしたり、名前をリズムに乗せて言ったりして活動できるようにする。 ・教科書の挿絵やDVDの画面を視聴して、楽曲全体の曲の気分を感じ取って聴けるようにする。 ・曲を聴いた感想・意見を発表し合いながら、音色を変化させる要素や材質に気付き、味わえるようにする。 ・楽器によって音色の違いがあることに気付くために、タンブリン、ギロ、カスタネット、クラベスなど身近な打楽器について、いろいろな打ち方を探れるようにする。 ・次時にグループに分かれて演奏するために、自分がやってみたい打楽器を選べるようにする。
		◎打楽器や一枚の紙について、音の出し方を工夫していろいろな音色を味わう。	
		◎ 常時活動 でリズムリレーをする。	・ 打楽器の音の出し方を工夫するために、前時に自分が選んだ打楽器を使ってリズムリレーができるようにする。

つなげる過程	2	<ul style="list-style-type: none"> ○打楽器が、材質によって三種類に区分できることを知って、それぞれの特徴をつかむ。 ○打楽器で「虫を探しに行く子ども」を表現できるように工夫する。 ○グループごとに工夫した音を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の打つ音と自分の音の違いやよさを感じるために、強弱や音色について比較して聴けるようにする。 ・楽器の構造の特徴をつかむために、打楽器の形から「金属でできているもの」「木でできているもの」「皮が張ってあるもの」に分類できることを知り、ワークシートの挿絵を色分けなどをして、構造の特徴をつかむようにする。 ・選んだ楽器ごとのグループで、打楽器の音色が、打つ強さや部位などで変わること気付くために、話し合いができるようにする。 ・本題材は、打楽器で「虫を探しに行く子ども」を表現することを知らせ、虫採りに行った経験からどんな音色で表現したらよいかを考えられるようにする。 ・場面に合わせた強弱や速度を工夫するために、虫に近づく際に大声や足音を立てると逃げられてしまうことを予想できるようにする。 ・音色を工夫して表現する意図が伝わるために、どんな足音、気持ちで虫採りに行くかを説明してから発表するようにする。 	①		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動でリズムリレーをする。 ○紙による音の出し方を探る。 ○友達と自分の考えた音の出し方を聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する打楽器でリズムリレーをしながら、拍子や打つ速度を一定にしないと、リレーが続かないことに気付けるようにする。 ・生活用品である紙で、様々な音色をつくり出せることに気づき、「草むらの虫」を表現するために自分なりの音の出し方を探るようにする。 ・打楽器と紙で子どもと虫の役で対話をするために、音遊びができるようにする。 ・グループに分かれて、紙で考えた独自の音の出し方を話し合い、友達に自分の演奏している音がどんな虫のどんな状態、鳴き声を説明できるようにする。 	①		
深める過程	◎打楽器で示した拍子を基に、紙による「虫のおしゃべり」で対話を楽しむ。					
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動でリズムリレーをする。 ○2グループで「虫をつかまえる子どもと虫」をテーマに劇遊びをする。 ○グループごとに発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも長くリレーが続くためには、何に気を付けて打楽器を打つべきかを考えながら、演奏できるようにする。 ・「虫のおしゃべり」で打楽器は、虫を捕まえる子どもの役をすることを確認して、その打ち方を工夫できるようにする。 ・打楽器の担当、紙の音の表現の仕方を工夫するために、2グループでそれぞれの役を分担して活動できるようにする。 ・表現の工夫をした思いや意図が言葉でも説明できるように、紙の登場する虫やその状態について、簡単なあらすじで説明して、思いが言葉で伝わるようにする。 ・音の出し方について、工夫していたり面白かったりした友達の演奏について意見を発表して、互いのよさを認め合う。 	②	②	

6 本時の学習指導 (3/4時間目)

- (1) **ねらい** 一枚の紙を使って、草むらに隠れている虫の鳴き声をイメージした音づくりをすることができる。
- (2) **準備** 打楽器 フラッシュカード 新聞紙 上質紙 「音楽づくりハンドブック」
- (3) **展開**

児童の活動	分	指導上の留意点及び支援・評価
○常時活動でリズムリレーをする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が手拍子などで速度を提示して、リズム打ちのきっかけのかけ声をかけて活動が始められるようにする。 ・各自が担当している打楽器でリズム打ちをする、4拍以内ならリズムを変えてもよい、速度を一定にする、などの注意点を確認する。
○「虫の鳴き声」の、紙による音の出し方を探る。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・紙でどのように音をつくるかを見通しをもつために、打楽器で「虫を探る子ども」を表現し、紙で草むらに隠れる虫を表現する場面を想定できるようにする。 <p>予想される意見 「こする」「くしゃくしゃにする」「折る」「破く」「たたく」など</p>

○友達と自分の考えた音の出し方を聴き合う。

15

- ・自分の思いに合いそうな紙を選択し、音の出し方を探るために紙や材質で音が変わることに気付けるようにする。
- ・虫だったらどんな気持ちになるかを想像するために、音を出す場面が草むらに隠れている虫であることを思い起こせるようにする。
- ・興味をもって激しく紙で音づくりをすることが予想されるので、草むらの虫の鳴き声として強弱、速度、リズムなどに着目して、適切な音づくりができるように支援する。
- ・グループで掛け合いながら音遊びをするために、子どもと虫の役に合わせてつくった音を聴き合うようにする。
- ・グループで、紙で考えた独自の音の出し方を聴き合って、友達にどんな虫の鳴き声かを説明できるようにする。
- ・指導者は、発表をした子どもの意図と、音の出し方を関連付けて、補足したり賞賛をしたりするために机間巡視する。
- ・次時は、グループごとに打楽器と紙で劇遊び「虫とおしゃべりをしよう」をすることを知って、意欲がもてるようにする。

創① 情景に合わせて、紙や打楽器の音の出し方を工夫している。(演奏観察)

ワークシート (第1・2時使用)

※  は、ワークシートを作成した時の意図や留意点です。

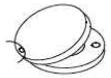
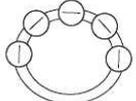
リズムリレーで、様々な音色があることに気付いた後、聴く活動で、演奏者の思いを想像し、思いや意図をもって演奏する大切さを学習します

2年音楽 なまえ ()

いろいろな音の中からすきな音をさがしましょう

☆ みんなががんばってれんしゅうした「山のポルカ」をえんそうしているね。どんなきもちで、音を出しているとおもうかな。

1 つぎのがつきは、どんなふうに音をだしていたかな。それぞれの音をあらわすことばをカタカナでかいてみよう。

	<input type="text"/>		<input type="text"/>	
	<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>		<input type="text"/>	

2 三つのがつかまえる人の足音は？
3 じぶんでかいた音がえた音を

虫をつかまえる人の足音は？

どんなふうに出すかな？

リズムリレーで様々な音色があることに気付いた後、音遊びを楽器の特徴や音色に対する思いと関連付けるように学習します

ワークシート（第3・4時使用）

2年音楽 紙で虫のおしゃべりをしよう

2年 組 名前()

虫になったつもりで、紙でなき声をつくってみよう。

- 虫が元気になっていません。

どんな虫かな。

虫の名前や虫のようすをかいてみよう。

元気ななきごえを紙であらわしてみよう。

どんな音かな。カタカナで書いてみよう。

その音は、

(じぶんがおもった音に○をつけよう)

はやさ

はやい

ちよつとはやい

あまりはやくない

はやくない

つよさ

つよい

ちよつとつよい

あまりつよくない

つよくない

音の長さ

ながい

ちよつとながい

あまりながくない

ながくない

- 「あつ！たいへん！人が来たよ」



さあ、虫はどんなきもちになるかな。

虫のなきごえは、どうかわるかな。

その音は、

(じぶんがおもった音に○をつけよう)

はやさ

はやい

ちよつとはやい

あまりはやくない

はやくない

つよさ

つよい

ちよつとつよい

あまりつよくない

つよくない

音の長さ

ながい

ちよつとながい

あまりながくない

ながくない

- 「人がいっちゃった！ さあ、またなこう」

どんな音でなきますか。ことばでせつめいしてみよう。

- 「虫とりをする子どもと草むらにかくれる虫」で、げきあそびをしてみよう。

常時活動で、着目できるようにした強弱や速度が変化すると、場面の雰囲気や思いも変わることを意識できるように学習します

常時活動で、着目できるようにした強弱や速度の変化について、自分の意図が明確になるように学習します

常時活動で考えさせたい「このように表現する根拠は何か」について、学習します